

研究成果報告書

(国立情報学研究所の民間助成研究成果概要データベース・登録原稿)

研究テーマ (和文) AB		福島県浪江町における原発事故に伴う避難指示解除前後の市街地及び集落の復興プロセス			
研究テーマ (欧文) AZ		Study on the recovery process from nuclear accident - Case study on Namie town, Fukushima			
研究氏 代表名 者	カナ CC	姓)クボタ	名)アヤ	研究期間 B	2016 ~ 2018 年
	漢字 CB	窪田	亜矢	報告年度 YR	2018 年
	ローマ字 CZ	Kubota	Aya	研究機関名	東京大学
研究代表者 CD 所属機関・職名		東京大学大学院工学系研究科 特任教授			
<p>概要 EA (600 字~800 字程度にまとめてください。)</p> <p>17 年 3 月の避難指示解除から約 2 年を経た浪江町の実態について、家屋の解体・維持管理の実態調査と、事業再開や新規営業の状況について聞き取り調査を行い、原発被災地域の復興プロセスの指標として捉えた。17 年現在の町内の居住者は震災前の 3%程度で、事業所・店舗の営業状況は、復旧復興事業に関連するもの、帰還者の住宅や家財の整備に関連するものが中心である。</p> <p>2018 年 12 月の段階で居住人口は 873 人となっており、第一原発より南では除染や廃炉に伴う作業員用アパートなどの建設が盛んで被災前より人口増加している自治体もある状況とは対照的である。当然、浪江町がそうすべきということではなく、浪江町ならではの復興のあり方が必要である。</p> <p>現時点の居住者には、大きく市街地で 3、集落部で 1 パタンあると考えられる。</p> <p>市街地パタンの一つは、周辺住民の帰還や十分な環境整備の進捗などによらずに帰還した方である。帰還意思を実現できる体力や経済力を有し、自力で帰還準備と帰還後の生活を送る。個人事業者、特に食品小売でない場合は在庫有無や過去の顧客との継続性が見込みといった営業可能性も重要な要素である。2 つ目は、移住者、新規事業者である。仮設商店街に入居した和食経営者や、空き家でシェアハウスをはじめた方々などである。3 つ目は、役場や警察・消防などの公共セクター勤務者で、役場周辺のアパート入居者が多く、単身赴任者も少なくない。なお、市街地には依然、生活環境に影響を与える破損家屋が存在する。家屋の公費解体申請期限は 18 年 3 月末であり、まちづくり会社の設立などの動きもみられる。身近なところで困ったことを相談できる場所が、町役場以外にも存在することは重要だ。</p> <p>集落部は、工業化時の面的開発地ではなく、主に旧来の宅地に居住者がみられた。敷地内の畑で自家消費用の農作業を行いながら暮らす高齢者が多いと考えられる。</p> <p>・今後の復興に向けて</p> <p>避難指示解除前にも公的な除染や住環境整備が進められて、今後も道の駅や帰還困難区域の拠点整備事業が予定される。加えて、被災者以外の新規事業への居住支援や、町に居住していなくても定期的に通う方への支援は、長期的に実践するに値する試みであると考えられる。</p>					
キーワード FA	原発被災地域	帰還	家屋解体	事業再開	

(以下は記入しないでください。)

助成財団コード TA					研究課題番号 AA								
研究機関番号 AC					シート番号								

発表文献（この研究を発表した雑誌・図書について記入してください。）									
雑誌	論文標題 ^{GB}	南相馬市小高区と浪江町の避難指示解除後の実態比較からの考察 避難指示解除を迎えた原発被災地域・南相馬市小高区の実態把握と復興に向けた取り組み～その5							
	著者名 ^{GA}	萩原拓也・窪田亜矢 他	雑誌名 ^{GC}	日本建築学会大会学術講演梗概集. 都市計画					
	ページ ^{GF}	897～898	発行年 ^{GE}	2	0	1	8	巻号 ^{GD}	
雑誌	論文標題 ^{GB}								
	著者名 ^{GA}		雑誌名 ^{GC}						
	ページ ^{GF}		発行年 ^{GE}					巻号 ^{GD}	
雑誌	論文標題 ^{GB}								
	著者名 ^{GA}		雑誌名 ^{GC}						
	ページ ^{GF}	～	発行年 ^{GE}					巻号 ^{GD}	
図書	著者名 ^{HA}								
	書名 ^{HC}								
	出版者 ^{HB}		発行年 ^{HD}					総ページ ^{HE}	
図書	著者名 ^{HA}								
	書名 ^{HC}								
	出版者 ^{HB}		発行年 ^{HD}					総ページ ^{HE}	

欧文概要 EZ

How does the recovery process happen in the area affected by nuclear accident? To answer and consider those questions, we surveyed the conditions of buildings and businesses in Namie Town, where the evacuation directive was partly cancelled on March 31st, 2017. The situations on return can be explained by three patterns in the downtown area and one in the surroundings. In downtown area, returned people without any relations to others, new comers after the disaster to contribute the recovery, and workers for the town office, fire stations, police office and so on. In the rural area, some returned residents can be seen in the traditional house and large plot with some cultivated lands. The situation in the single-family developed area was totally different. Namie Town is still on the way to recovery. We have to watch what will happen because we don't know this human-caused disaster.